合志楓の森中学校だより

楓の森

R4.12.5（第８号）
文責：渕上 佳宏

「プレゼン教育」は「ことば教育」

先週の臨時休校や学年・学級閉鎖でご承知のとおり、昨今になって、本校でも新型コロナウイルスの感染が拡大してきています。校内の感染対策は以前と変わらず継続していますが、外部からの感染はなかなか防ぎようがないとも感じています。このような中、明日から二年生は沖縄への修学旅行に出かけます。そうならないようひたすら祈っていますが、旅行団全員の安全と健康のため、苦渋の選択をお願いすることがあるかもしれません。

ところで、十一月十二日（土）に開催した学習発表会は、大成功のうちに終了することができました。ほとんどの保護者の皆様に、来校またはオンラインでご参観いただきましたし、本校ＨＰにも記事を載せていますので、当日の詳細は割愛させていただきます。

すべての発表が素晴らしかったのですが、私（校長）が特に凄いと感じたのは、三年生の発表。その中でも二組の 野福 さんが行ったハンセン病に係る差別事件（宿泊拒否事件）に関するプレゼンテーションでした。「プレゼンが凄い」と言うと、普通は「見栄えが良い」と思われがちですが、そうではありません。私が凄いと感じたのは、そこで使われる「言葉」、つまり、スライド上のテキスト（文章）や話し言葉（発表原稿）の洗練度です。例えば、

① スライドには回復者さんの言葉をそのまま使いつつ、話し言葉は聴き手が分かりやすいよう解説を含めた文章になっている。

② 話し言葉は新聞記事等をうまく引用しつつ、スライド上のテキストは要約（キーワード化）したり、補足したりしている。

③ 画像（人物・場面の写真や新聞記事）と話し言葉のリンクが絶妙で、画像が何を意味しているのか直感的に伝わる。

などです。私は、「かなり先生の手が入っているのでは・・・・」とつい疑ってしまい、担当の小山 先生に聞いてみると、小山 先生が手伝ったのは新聞記事を手に入れるところだけ。また、見栄えはＩＣＴに堪能な 益﨑 先生のアドバイスがあったものの、「言葉」については全て彼女自身で考えたそうです。

ここでは、一人の生徒の事例をケーススタディ的（定性的）に紹介しました。本校では様々な場面で、「ＩＣＴ版のことば教育」とも言うべき「プレゼン教育」の視点を取り入れた教育活動を展開しています。そのことで、生徒たちは、言葉を操ったり、言葉を練ったり、言葉を研ぎ澄ましたりする場面に数多く遭遇します。全国学力学習状況調査で定量的に見えた三年生の学力、特に国語が著しく良好な結果だったことも、このような取組の積み重ねによるものだったと私は分析しています。

本日、一、二年生は、県学力学習状況調査を受検しました。果たして一、二年生に対しても効果のある取組となっているでしょうか？とても期待しているところです。

「いのち」~人として輝く生き方を~
学習発表会の3年生発表から

要注意！ 少年の非行が増加中

本校は生徒たちが落ち着いていて、開校以来、生徒指導上の問題はとても少なかったのですが、最近になって二件の看過できない事案が発生しました。事案の詳細については、プライバシー保護の観点からお知らせできませんが、この二つの事案には、**①他校生 中学生とは限らない との繋がりの中で 発生 ②スマートフォン（SNS）が問題に大きく絡んでいる**、という二つの共通する特徴があります。

私（校長）は、熊本県校長会の生徒指導専門委員（中学部会副委員長）を務めていることもあり、熊本県警察生活安全部少年課の方からお話を聞く機会がありました。そのお話では、ここ数年は、少年非行の数が減少傾向にあったのが、最近、再び増加傾向に転じたとのことでした。また、不良行為の広域化（以前はエリア内だったのが、全県さらには他県へも）が見られ、そこにも、ＳＮＳの影響があるものと思われます。さらに「大麻」が未成年者へ広がってきており、「隠語」で取引されているそうです。それもやはりＳＮＳ上です。これらは、反社会勢力が若者を引きずり込もうとする動きにも連動しているそうで、極めて憂慮すべき状況です。ＳＮＳで誰とでも繋がってしまう時代に、「我が子に限って」はありません。

幸い本校の二事案は、教頭や生徒指導主事を中心に組織で対応し、警察とも情報を共有しているので、一旦は収拾がついています（もちろん見守りは続けていきます）。

私は「治に居て乱を忘れず」をモットーにしていますが、もはや治に居ないのかもしれません。

学校HPの
QRコード